

広報よりのい800号まで町広報誌のバックナンバーを紹介するとともに町の歴史を振り返ります。今回は昭和60年5月1日に発行された町広報誌の中から名水百選「風布川・日本水」の記事を紹介します。

広報



よりのい

●昭和60年5月1日発行

ピックアップニュース

埼玉県でただ一つ

風布川・日本水が「名水百選」に

町の西部、風布・金尾

名水百選とは

地区を流れる風布川（釜伏川）、そしてその源流の日本水が環境庁の名水百選に選定されたことが特集されています。

環境庁（現在の環境省）では、全国の清澄な水について、その再発見に努め、広く紹介し、普及を図るとともに、水質保全への認識を深め、

併せて優良な水環境を積極的に保護することなどを目的に昭和60年3月、全国各地100カ所の湧き水や河川を「名水百選」として選定しました。

また平成20年には、水環境保全の一層の推進を図ることを目的に、昭和60年選定の「名水百選」に加え、「平成の名水百選」として選定し、合わせて200選となりました。

水質や水量などを条件に全国から選出

環境庁は、昭和59年から選定作業を進め、環境庁が依頼した水の専門家や大学教授らで

構成する「名水百選調査検討会」が判定しました。○水質・水量・景観（周辺環境）・親水性の観点からみて保全状況が良好であること、

○地域住民による保全活動が実施されていることを第一条件に、規模や希少性などが重視されました。

昭和60年1月に第1次分として31件を選定、公表し、第2次分について69件を選定して昭和60年3月28日に公表しました。すべての

都道府県から名水が選ばれ、埼玉県からは唯一「風布川・日本水」が選定されました。

風布川

日本水を源流の一つとする清流で、「夫婦滝」や「天狗岩」など数多くの名所があります。

日本水

日本水は、釜伏山の北面にある「百畳敷岩」と呼ばれる大岩の下部から湧き出し、昔から枯れたことがないといわれています。

※日本水の源泉は現在、立入禁止となっています。

COLUMN

日本水は、日本武尊が東征の折、戦勝を祈願し剣を岩壁に刺したところ、たちまち水が湧き、この冷たさ一杯しか飲めなかったとの伝説から「一杯水」とも呼ばれます。



風布川の流れ

寄居町の主なできごと(昭和60年)

- 3月 勤労福祉センター（よりのい会館）完成
「風布川・日本水」が環境庁から『名水百選』に選定
- 4月 合併30周年記念式典挙行